

I 実践

1 本校の人権教育の目標

(1) 経営方針

- ア 人権に対する理解と認識を高め、各教科、道徳、特別活動など学校生活全体の中で、人間的な触れあいを通しての平等や人権尊重の精神の育成を目指す。
- イ 地域、学校及び生徒の実態を把握して人間関係の改善を図り、言語環境を整えることで意欲的に生活や学習ができる集団づくりを目指す。
- ウ 互いに信頼し、思いやりの心をもって生活できる集団づくりを目指す。

(2) 施策

- ア 全職員の共通理解の下に指導体制を確立する。
- イ 生徒の実態や悩みなどを日記指導・教育相談や日々の観察等を通して的確に把握し、個に応じた指導をする。
- ウ 職場体験・文化祭など各種行事や活動を通して感謝の心や思いやりの心を育てる。
- エ 授業参観、保護者会、家庭訪問、学年通信等を通して、保護者への理解・啓発を促す。

2 実践内容

(1) 主題名 自分以下を求める心

(2) 題材設定の理由（男子19人 女子17人 計36人）

本学級の生徒は、男女の区別なく、仲良く活動することができる。清掃活動や給食当番などの当番活動にもきちんと取り組める生徒が多い。その一方で、友達をからかってみたり、自分勝手な行動をしてしまったりしてトラブルになることもある。

そこで、この題材を通した活動をすることによって、生徒たちのまわりにあるいじめや差別と自分自身のかかわりを考えさせたい。現代の中学生は、日ごろ他人と競争したり、比較したりして生活することが多い。しかし、その場面を「ともに高め合う体験の場」と考える生徒は少ない。単に自分の立場や順位を気にして体裁をつくろう生徒たちの考え方を変えていきたい。だれにでもあろうと思われるこのような意識が、差別を生んでいることに気づかせたい。自己の内面を見つめながら、差別やいじめの解消に積極的に取り組む態度を育てていきたいと考え、本主題を設定した。

(3) 学習計画

	月／日	活動の場面	活動の主体	活動内容	支援と指導上の留意点
事前の指導	11／22	短学活	個別	実態調査の実施	・学校生活や友達関係について日頃考えていたり、感じていたりしていることを素直に答えられるように助言する。
本時	11／26	学級活動	学級全体	「自分以下を求める心」について話し合う。	・ワークシートを使い差別や偏見のない社会の実現をめざす意識を高められるようにする。

(4) 本時の指導

- ア ねらい 差別や偏見のない社会の実現をめざす意識を高める。
- イ 準備・資料 読み物資料「自分以下を求める心」、ワークシート

活動と内容	支援と指導上の留意点
1 読み物資料「自分以下を求める心」を読む 2 ワークシートに沿って進めていく。 ○なぜ「自分以下の存在がほしかったのだろう」 ・自分自身の弱さにたえられなかったから。 ・自分さえいじめられなければいいという気持ちがあったから ・自分より下の子がいるとホッとする気持ちがあるから。 ○思っているだけ、知っているだけでは、どうして相手を傷つけてしまうのだろう。 ・自分さえよければという気持ちがあるから。 ・相手の痛みや悲しみを自分のこととしてとらえることができないから。 ○自分以下がいない生き方とは、どんな生きかただろう。 ・共に励まし合い、高め合っていく関係を築いていくこと。 ・差別やいじめのない人間関係を築いていくこと。 3 学習のまとめをする。 ○今、私たちに求められている生き方について考えてみよう ・一人一人が認められ、大切にされる人間関係を築いていくこと。 ・今、自分にできることを精一杯やり遂げていくこと。	・自分自身の差別意識に気づき、自らの人権感覚を磨いていくことの重要性に気づくことができる。 ・差別やいじめを解決していくためには、具体的に行動していくことが求められることが理解できる。 ・差別やいじめをなくしていくことは、他人だけでなく、自分自身の生き方を豊かにしていくことを理解する。 ・自分自身の強さや弱さを鋭く見つめ、自分自身の生き方を自問自答しながら生活を高めていこうとする意欲を育てる。 ・人間として素晴らしい生き方とは、お互いの個性を個性として認め合い尊重し合う中で、人間への尊敬を深めていく生き方であることが理解できたか。 (ワークシート、発表)

3 授業の考察

読み物資料が中学1年生の作文で、「自分以下を求める心」が他人に対する見方や自分の生き方ではないのかを考えさせるものであったので、ワークシートに自分の意見を意欲的に書き込む姿が見られた。また全体での話し合いの場面でも、進んで自分の意見を発表する姿が見られた。

II 今後の課題

道徳の授業でも取りあげ、今後も共に自分自身の生き方を見つめ、人を差別したり、いじめたりする世界から解放されていくとは、どういうことなのかを学級全体で考え、語り合いを深めていけるような授業展開を実践していきたい。